



とらいあんどぐる



2019 年 3 月

一音会ミュージックスクール発行

「声」

私の母が、亡くなる 8 年前に、心肺停止をおこして、生死の境をさまよったことは、かつて「とらいあんどぐる」で触れたことがあったかと思えます。

母が亡くなったのは 7 年前です。そのさらに 8 年前のできごとですから、15 年も前の話になります。

生前の母は、この日のことを、「私の第二の命日」と呼んでいました。そのくらい大事件でした。

15 年前の 3 月 12 日です。

実際には、生死の境を・・・どころではなく、いったん死んで、奇跡的に生き返ったに等しい顛末でした。

そのとき、とても印象に残ることがありました。

母は数時間におよぶ蘇生措置を受け、心臓が再び、動き出しました。しかし正確に言えば、動き出したかと思えばまた止まり、また措置をおこない動き出し、そしてまた止まり・・・と、何度も死んだり生きたりを繰り返していたそうです。

その間のことを、私は何も知りませ

ん。廊下で待たされていたのです。長い長い時間でした。

おおまかなことは、後に担当になった先生からききましたが、実際にその間、何がおきていたのか、私には知るよしもありませんでした。

ずっと意識がない状態だった母も、知るはずがありません。

母は、集中治療室ですぐす中で、奇跡的に意識を取り戻します。

その数日後には、人工呼吸器をはずし、言葉を交わすことができるまでになりました。

そんなある日の夕方、一人の男性がふらりと母の病室に入ってきました。

知らない方です。

その男性は、にこにこしながらも、一言もしゃべらず、母のベッドに近づいてきました。

着ている服から、病院の先生であることは分かります。しかし、病棟の先生方の白衣とは違う、手術服のようなものを着ています。

その男性は、20代後半くらいの若い方で、とても大柄でした。

言葉を発することなく、にこにこしながら、母のベッドのそばに立ち、横になっている母の顔を見おろしています。

母も「誰だろう？」と、不思議そうな顔で、その男性の顔を見つめています。

母も知らない人のようです。

その男性は、そこでおもむろに口を開きました。

「ご気分は、いかがですか？」

大柄な身体から発せられた声は、たく豊かな声でした。

それをきいた母は、びっくりした顔をし、目を大きく見開きました。

そしてその目には、みるみるうちに涙があふれました。

母は、涙で言葉をつまらせながら、こういいました。

「私を、この世にひきもどしていただき、ありがとうございます」

今度は、それをきいた男性が、びっくりしました。

「やはり！ やはり！ ぼくのこと
が分かるのですね！」

男性は興奮をおさえきれないような
様子で、頭をかきむしり、病室を歩き
まわりはじめました。

「そんなことって、あるんだろう
か！ 信じられない！ 信じられな
い！」

母は、いいました。

「私は、先生のお顔を見るのは、は
じめてです。でも、先生の声をつる
はずがありません。何度も死のふちに
沈みかけた私を、ひきあげてくださ
ったんですよね？」

その男性は、救急救命室の先生でし
た。だから病棟の先生とは違う服装だ
ったのです。

母の蘇生をおこなってくださった先
生であることに、母は声で気づいたの
でした。

先生は、少し気持ちが落ち着いてき

たのか、私がすすめたイスに腰かけま
した。

「あなたは、死にかけていた。いえ、
死んでいました。こんないい方、ごめ
んなさい。でも、蘇生は無理だと、本
当は何度も思っちゃったんです。実は、
まわりの医師も、蘇生は無理という方
向にかたむいていました」

そこで母は、意外なことをいいます。

「知っていました」

先生は、また驚いて立ち上がります。

「えっ！ 知ってたって、どうい
うことですか?! きっかけをきい
たい！」



母はいいます。

「どなたかが、先生のことを止めましたよね？ 『やばいよ、この人、アールエーだよ、肋骨が折れるよ』って。ところで、アールエーって、なんですか？」

先生は、いいました。

「ああ、ぼくら、アールエーっていうんですよ、あなたの病気のこと・・・そんなことより、本当にきこえていたんですね？ 驚いたなあ。あなた、どう見ても死んでたのに。そんなことって、あるんだろうか・・・そんなことって、あるんだろうか・・・」

先生はまたしばらく、興奮をさげるために、病室内を歩きまわりはじめました。



またイスに戻ってきて、口を開きます。

「ほかに、おぼえていること、ありますか？」

「ええ、先生は『肋骨の1本、2本、なんだー！！』って、すごく大きな声でおっしゃいましたね。私、それがとてもうれしかったんです」

母は、ほかにもいくつか、先生方のやり取りの様子を再現してみせました。

先生は、興奮して、また立ち上がりました。

「ぼくは、ぼくは、まわりに止められたけれど、心臓マッサージを止めることができなかった。確かに、肋骨が折れるかもしれないと思った。あなたの病気は、そもそも骨が弱いんです。折れた肋骨が心臓を傷つけるリスクも、もちろん頭にあった。でも、なんでだろう？ ぼくはそれでも蘇生措置を止めなかった。なんでだろう？」

混乱した先生は、また歩きはじめます。

「いや、ちがう、ちがう・・・そうじゃない・・・ぼくは、ぼくの声が、あなたに届いているような気がしていた。バイタルは全然ダメだったけど、なんとなくそんな気がしてたんです。だから心臓マッサージを止められなかったんです」

先生はまた、イスに腰かけます。

「ぼく、あなたが意識を取り戻す可能性は、とても低いと思ってたんです。そのくらい、あなたの状態は悪かった。蘇生が無理だと判断した周りの医者責められません。ぼくも内心、この人は助からないかもって、どこかで思っていましたから。だから、あなたが意識を取り戻したと、病棟のうわさできて、ものすごくびっくりした。そして、あなたに会いに行こうと思ったんです」

母は、うなづきながら、先生の話聞きいていました。

「ぼくね、確かめに行こうと思ったんですよ。ぼくは、蘇生措置をしながら

ら、あなたがぼくの声をきいている気がしていた。それがぼくの気のせいだったのかどうか、どうしても確かめなかった」

先生は、お若いせいか、興奮のせいか、すべてが率直でした。

先生が、一切自分から名乗ることなく、病室に入ってきた理由が分かりました。先生は、試していらっしやったのです。母が自分のことを分かるかどうか。

先生は、独り言のように、つぶやきました。

「見えない。しゃべれない。動けない。自発呼吸もできない。でも、きこえている。そういうことなのか・・・」

先生は、しばらく無言で考えこんでいました。

「ぼくは、何より、あなたに話しかけるべきだった・・・あのとき、『ぼくがあなたを助けてみせます』、そういつてあげれば良かった・・・」

母は、いいました。

「いいえ、先生方の会話はきこえていました。たった一人だけけれど、あきらめないでいてくれる先生がいると分かり、私はもしかしたら助かるのかもしれない、と思いました。生きる力がわいたのです」

先生は、はっとしたような顔をし、その後、すっと立ち上がりました。

「ぼく、もう救急に戻らなくちゃ。今日も、生死の境にいる人が、運ばれてきます。もう向かってきているかもしれない」

先生は、母の顔に向き合います。先生の顔は、晴れやかでした。

「ぼく、今日のこと、忘れません。意識がなくても、きこえているんですね。うまくいえないけれど、それが分かったことは、ぼくの人生で、ものすごく大きなことでした。貴重なお話、ありがとうございました！」

母も良かったです。

「私をこの世に呼び戻してくださった先生の声、私も生涯、忘れません。

この命、大切に使います」

それをきいた先生は、笑ったような泣いたような、くしゃくしゃの顔になりました。

目には涙が光っていました。

あれから、15年。あの先生は、もう「ベテラン」と呼ばれる年齢にいられていることでしょう。

そして、あれからたくさんの命を呼び戻したことでしょう。

あの先生が、今もどこかの救急救命室で奮闘し、患者さんに、あの大きな声で呼びかけていらっしゃる姿を思い浮かべると、私の中に大きな力がわいてくるのです。 (江口 彩子)



◆「ピアノ・トライ」が終わりました

今年最初の大きなイベントである「ピアノ・トライ」と「ル・コンセール」が、すべて無事、終了しました。

今シーズンのインフルエンザは、まさに「猛威」という言葉通りでした。インフルエンザにかかった生徒さんは非常に多くいらっしゃいましたが、意外なほどにご欠席の方が少なく、皆さまのご努力をたいへんありがたく思いました。日程を動かしてご参加くださった方、ふせっていて準備が十分ではなかったのに、果敢に挑戦してくださった方、すべての方に御礼を申し上げたいと思います。

練習を重ねていたのに、ご病気やおケガでご参加がどうしてもかなわなかった方、お会いできなくて本当に残念でした。生徒さんご自身が、一番、くやしい思いをしていらっしゃることでしょう。でも、練習を重ねてきた事実は消えません。そこで培った力も消えません。その力を発揮する機会は、かならずあります。その時を楽しみにしています。

夏は、大きな大きな舞台です。音響に定評ある「かつしかシンフォニーヒルズ」です。どうかそれに向けて、力を蓄えてください。



◆「フォルテの会」が終わりました

副科の生徒さんの発表会である「フォルテの会」を、2月3日（日）に、「ひびきホール」で開催しました。合唱あり、独唱あり、バイオリンあり、フルートあり、バラエティ豊かな楽しい会となりました。

ご出演くださった生徒さん、ご家族の方をはじめ足をお運びくださった方々、本当にありがとうございました。

合唱のクラスである「うたくらぶ」は、今年の夏の発表会で「ドレミの歌」を発表する予定です。

ピアノ発表会のような大きな舞台上で「うたくらぶ」が発表する機会は、あまりありません。

今、「うたくらぶ」を検討してくださっている方は、またとないチャンスですので、ぜひおはやめに練習に加わってください。

「うたくらぶ」は、無料でご体験、ご見学いただけます（小学生以上の生徒さんはご体験、未就学の生徒さんは原則、ご見学とさせていただいています）。

うたくらぶ レッスンスケジュール

第4土曜日 午後 1：00～ 2：00（幼児～小学生）

第3日曜日 午前10：00～11：00（大人）

〃 午前11：00～12：00（幼児～小学生）

〃 午後12：25～ 1：25（幼児～小学生）

〃 午後 1：30～ 2：30（中高生）

第4日曜日 午前10：40～11：40（幼児～小学生）

〃 午後 1：00～ 2：00（幼児～小学生）

「うたくらぶ」は、月1回、60分レッスン、お月謝は、1500円です。ご興味がおありの方は、お問い合わせください。

◆新年度時間割をお組みしています

新年度変更希望表のご提出に、ご協力をありがとうございました。現在、みなさまからお出しいただいた変更希望表をもとに、4月からのレッスン時間割を作成しております。

曜日、時間帯、コースについて、変更を希望された方の多くには、時間割に関するご相談のお電話を差し上げているところだと思います。少しでも、お一人お一人の生徒さんのご都合にかなう時間割となるよう、努力を続けております。

しかし、物理的にご希望をかなえることが難しい場合もあり、その点は、どうかご理解ください。たとえば、曜日や時間帯を変更される場合、以前からその日時にレッスンを受けていらっしゃる生徒さんが優先されます。そのため、「そのままの担当で」とご希望をいただいても、同じ担当でお組みできるとはかぎりません。

また、お電話を差し上げた時に、お留守だった場合、留守番電話の設定をしてくださっている方には、極力、メッセージを残すようにしています。お手数ですが、ご確認をお願いいたします。

また、最近は留守番電話の設定をしていらっしゃる方も多く、なかなか用件をお伝えできない場合もあります。着信をごらんになって、可能なら本部まで折り返しお電話いただけますと、たいへん助かります【本部：03-5966-7711】。

と申しますのも、同じ時間帯、同じ担当で希望される生徒さんが2人以上いらした場合は、同じ条件であれば先着順となり、先に連絡をくださった生徒さんから決まってしまう場合があります。人気の高い曜日や時間帯で、結果的に、連絡がつきにくい方のご希望が通りにくくなっています。日中のお電話が難しい方は、メールでのご連絡でもかまいません。ご面倒かと思いますが、ご協力をよろしくをお願いいたします。

以前にお出しくださった変更希望表に変更が出た場合にも、なるべく早く、ご連絡ください。

◆新時間割を電話でお知らせします

新時間割は、新年度からの担当が、3月29日(金)または30日(土)に、主に電話で、みなさまにお知らせします。今年からは、メールアドレスをお知らせくださっている生徒さんに、メールでお伝えすることもございます。

もし、4月1日になっても何も連絡がいかない場合は、何かの手ちがいが起こっているかもしれませんので、お手数ですが、生徒さんのほうから、本部まで、お電話ください。

この期間、ご旅行などでお留守にされる生徒さんは、携帯電話の番号を、事前にお知らせください。こちらからメールやFAXで連絡をさしあげた場合は、ご面倒ですが、受信したことをお知らせいただけますでしょうか。

ご協力を、よろしくお願いいたします。



◆通信教育もご活用ください

年度の変わり目に、生活が大きく変化する生徒さんも、少なくないと思います。おひっこしにともない、教室に通えなくなってしまう生徒さんもいらっしゃるで

しょう。学年が上がって忙しくなり、今までと同じペースで通うことが難しくなる生徒さんもいらっしゃるでしょう。

教室にお通いくださっている生徒さんには、なかなか通信教育についてご案内する機会がありませんが、一音会では、これまでのおけいこが絶対に無駄にならないように、通信の形でサポートさせていただいています。たとえば、絶対音感のおけいこは、完成を待たずに中断してしまえば、それまでのおけいこが、何の結果も生まないことになってしまいます。

通信教育を利用して、それまで培った力を失うことなく、受験の学年を上手に乗り切った生徒さんも、多くいらっしゃいます。

一音会では、以下の4種類の通信教育を、ご用意しています。

「ミミちゃんクラブ」：ご自宅のピアノを使った、絶対音感のレッスン

「ドクターP」：インターネットを使った、絶対音感のレッスン

「こんこんクラブ」：インターネットを使った、ピアノのレッスン

「あれぐるクラブ」：郵送でやり取りする、ソルフェージュのレッスン

通信には、通信の良さがあります。教室にお通いになりながら、通信のコースを並行していらっしゃる生徒さんも少なくありません。

ご興味がおありの方は、ぜひ資料をご請求ください。本部でも、ご相談に乗らせていただきます。



◆客員教授プリドノフ先生ご夫妻が来日します

5月に客員教授のユージン・プリドノフ先生、エリザベス・プリドノフ先生のご夫妻が来日されます。プライベートレッスン、コンサート、オーディションを予定しています。

日程は、以下のとおりです。コンサートの場所は、「ひびきホール」です。コンサートの時間やプログラムにつきましては、追ってお知らせいたします。コンサートの日は、ぜひご予約をあけておいてください。

レッスン	: 5月18日(土)・19日(日)・20日(月)
コンサート	: 5月25日(土) 時間は追ってお知らせいたします
オーディション	: 5月26日(日) //



今回、先生方のご厚意もあり、すべてのスケジュールを土日に重ねる形にさせていただくことができました。

お一人でも多くの生徒さんに、この機会を活用していただきたい気持ちからです。

客員教授の先生のレッスンは、大きな生徒さんや上級の生徒さんだけのものではありません。五線読譜が完了していれば、どなたでもお受けいただけます。

過去、未就学の生徒さんで、レッスンを受けてくださった方も、多くいらっしゃいます。

レッスン用に大きな曲をご用意いただく必要もありません。普段のレッスンで進めている曲で大丈夫です。

レッスンは英語です。通訳の要、不要も、あわせてお申し込みください。ご質問、ご相談は、本部でもお受けできます【本部：03-5966-7711】担当：谷口。

30分レッスン……レッスン料（12500円）＋通訳（2500円）→ 15,000円

45分レッスン……レッスン料（18750円）＋通訳（3750円）→ 22,500円

60分レッスン……レッスン料（25000円）＋通訳（5000円）→ 30,000円

◆「ジュニコン・オーディション」にご参加ください

「第13回ジュニアコンサート・オーディション」を開催します。生徒さんの、音楽性、実力、将来性、すべてを総合的に評価する審査となります。

以下が、エントリーの要綱です。

- ① ジュニコン・オーディション」は、「ひびきホール」でおこない、公開とします。たくさんの生徒さんにオーディションをきいて、学んでもらいたいと願っています。
- ② 曲目は自由ですが、演奏時間は6分～12分程度とします。組曲や変奏曲の抜粋、ソナタの楽章の抜粋、短い曲を何曲か組み合わせることはかまいません。6分～12分は目安です。多少オーバーしてもかまいません。
- ③ エントリー資格者は、2019年4月時点で、小学4年生～高校3年生の、一音会に在籍する生徒さんです。
- ④ エントリーするための費用は15000円です。これは全額、審査員の先生ご夫妻や通訳者へのお礼にあてられます。もし、選ばれて「ジュニア・コンサート」に出演することになったら、コンサート出演費用5000円が必要になります。

- ⑤ 「ジュニア・コンサート」は、6月13日（木）夕方、「ゆめりあホール」（西武池袋線・大泉学園駅前）でおこないます。
- ⑥ 強制ではありませんが、オーディションの前に、プリドノフ先生ご夫妻のどちらかのレッスンを受けて、的確なアドバイスをいただいております。ただし、合否は当日の演奏のみで決まりますので、「先生ご夫妻のレッスンを受けなければ合格しない」などということはありません。

◆欠席連絡をメールでうけたまわります

これまで、レッスン欠席のご連絡は、主に「ショパンはうす」にお電話をいただく形で、お受けしてきました。「ショパンはうす」が無人の時間帯は、本部にお電話をいただいていた。

しかし、夜間や早朝は、本部も不在であるため、皆さまにご不便をおかけしてきました。申し訳ありませんでした。

2019年4月から、欠席のご連絡の場合、欠席連絡専用のメールアドレスをお使いいただけるようにいたします。これで、深夜でも早朝でもご連絡いただけるようになります。以下が、欠席連絡用のメールアドレスです。

oyasumi_ichionkai@yahoo.co.jp

以下の点をご了承ください。

- ◆一音会の他のメールアドレスではなく、上記の欠席連絡専用アドレスをお使いください。
- ◆件名にかならず生徒さんのお名前を書いてください。
- ◆メールの本文には、①生徒さんお名前、②欠席日時、③レッスン曜日、④担当名（何のレッスンをお休みになるのか）を、かならずお書きください。

◆欠席連絡以外の、レッスンの振替依頼や担当への問い合わせは、このメールではお受けできません。別途、お電話ください。



◆ヨガ・レッスンのご案内

すでにご案内してきましたように、「ショパンはうす」で、ヨガのレッスンをお受けいただけるようになりました。講師は、太田沙織さんです。

すでに何人かの方に、ご体験いただき、ご好評いただいています。

そこで、曜日と時間を決めて、開講することにいたしました。以下の時間で、クラスを開きます。ご希望の方はご予約ください。これ以外の曜日や時間をご希望の場合は調整しますので、お問い合わせください。

金曜日 13:00～14:00

金曜日 14:30～15:30



◆新年度のレッスン開始日

新年度最初のレッスン日は、次のようになります。

月曜日・・・・・・・・・・ 4月 8日

火曜日・・・・・・・・・・ 4月 9日

水曜日・・・・・・・・・・ 4月10日

木曜日・・・・・・・・・・ 4月11日

金曜日・・・・・・・・・・ 4月12日

土曜日（毎週）・・・・・・ 4月13日

土曜日（偶数週）・・・・・・ 4月13日

土曜日（奇数週）・・・・・・ 4月20日

日曜日（月1回）・・・・・・ 4月14日

日曜日（月2回）・・・・・・ 4月 7日

日曜日（月3回）・・・・・・ 4月 7日



みなさま、良い春休みをお過ごしください。新年度も、引き続き、どうかよろしくお願いたします。

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。